

京都市

農林業だより



時を超え美しく
ひと輝く歴史都市・京都

発行 京都市産業観光局
農林振興室農業計画課

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町
488番地 電話(075)222-3351

<http://www.city.kyoto.jp/sankan/nourin/index.html>

小学生が京野菜栽培を体験

～未来の農業サポーター育成事業～

京都市では、京都の農業ファンを育てようと、本年度から未来の農業サポーター育成事業を実施しています。市内の小学校3校で、子どもたちが農作物の播種から管理、収穫に至るまでの一連の作業に取り組み、農家の栽培や農家の方とのふれあいを通じて、農と食とのつながりを体感しています。



堀川ごぼうの植付作業（修学院小）

修学院小学校では、堀川ごぼうの栽培に取り組んでいます。堀川ごぼうは少し斜めに傾けて植えるのがポイントですが、子どもたちにとってはこの傾き具合がなかなか難しいようで、「どれくらい土を被せればいいの?」と、ごぼうと悪戦苦闘しながらも、一所懸命に植付を行いました。



熱心に聞き入る子どもたち（榎原小）

榎原小学校では、もち米や大根、ブロッコリー等色々な作物の栽培に取り組んでいます。定植作業のとき、好奇心旺盛な子どもたちから飛び交

う様々な質問に、農家の方はとても感心した様子で、ひとつひとつ丁寧に答えていました。

山階小学校では、山科なすの栽培等に取り組んでいます。子どもたちは、農家の方の心配をよそに、泥にまみれるのもお構いなしに農作業に熱中していました。また、小学校の夏祭り、自分たちで育てた山科なすの即売も体験しました。



夏祭りでの販売体験（山階小）

農家の方の農業に対する熱い気持ちやこだわりが、一人でも多くの子どもたちに伝わり、未来の農業サポーターの育成につながるよう、今後、取組を充実していきます。

京都大原土地改良区が発足

平成17年8月17日、京都府知事の認可を受け、京都大原土地改良区が発足しました。

これまで大原では、地域の熱心な農家の方たちが「大原農業クラブ」を立ち上げ、朝市を催してきました。また、住民たちが「京都大原里づくり協会」をつくり、グラウンドワーク活動による里づくりを行うなど、地域が一体となって農業と観光を軸にした活性化を進めてきました。



京都大原土地改良区の役員

このようなか、京都大原土地改良区は、農業生産性の向上と貴重な地域資源である農地及び農業用施設の永続的な保全のため、今回、組合員数189人、受益面積^{19ヘクタール}を対象地域とし、設立されました。

これにより、本市が進める観光農村育成事業の内、主にほ場整備や農道・水路整備等の農業生産基盤の整備について、今後は京都大原土地改良区が主体となって進めていくこととなります。

ほ場整備区域内では、ヒガンバナの移植や空石積水路の施工など、地域の景観や生態系との調和に配慮した取組を進める予定です。

※グラウンドワーク活動とは

住民（NPO）、企業、行政が協力して、地域の身近な環境（グラウンド）を整備・改善（ワーク）する運動のことです。

木の香でゆったり ウッディー京北

右京区役所京北出張所の北隣にウッディー京北（京都市林産物需要拡大センター）があります。ここは主に京北地域で生産された

林産物を展示・販売する施設として、平成8年4月にオープンしました。

中に入れば杉や桧などのさわやかな香りに包まれ、中央にある樹齢約600年の檜杉（やぐらすぎ）



京北地域の特産品がずらり

が出迎えてくれて、京北地域の森林資源の豊かさを体感できます。

展示・販売コーナーには、しよもじやすりこぎなどの小物から手作りの家具までとこころ狭しと並べられ、木の柔らかさ・ぬくもりを触って確かめる事ができ、自分だけの家具をオーダーする事も可能です。

また、林産物だけでなく味噌や納豆もちなどの地域の美味しい特産品も販売していて、同地域の魅力が凝縮されています。

更に喫茶・軽食コーナーでは京北地域のおいしい水で作られたコーヒーや季節ごとに変わる定食などを味わうことができます。

京北地域を訪れた際にはぜひ一度立ち寄って、ゆったり一息ついてみてはいかががでしょうか？

ウッディー京北 問い合わせ先
〒601-0251
右京区京北周山町上寺田 1-1
電話・FAX 0771-52-1700



新京野菜栽培のススメ

右京区京北・京唐菜編



京都市では、京都大学と連携し、

新しい京野菜として有望な品種を

「新京野菜」として開発、導入を進

めており、4月に合併した「右京

区京北」地域においても葉を食用

とするところから「京唐菜」の試

験栽培に取り組んでいます。

担当農家の比賀江義次さんは、

「登録農薬が少ないので害虫は株元



ハウスで栽培されている京唐菜

苗の入手等に関する問い合わせ先

農業振興整備課	Tel 2 2 2 2 3 3 5 2
北部農業指導所	Tel 4 9 3 6 6 6 0
西部農業指導所	Tel 3 2 1 0 5 5 1
東部農業指導所	Tel 6 4 1 4 3 4 0
京北農林事務所	Tel 0 7 7 1 5 2 1 8 1 7

の周りを紙で囲って防ぎ、アブラムシは水をかけて流し落とし防ぎました。京唐菜は、一株から何回でも収穫できることや収穫時期を逃しても育ちすぎたところを刈り取ればまた収穫できるところが良いですね。また、夏場の葉菜が珍しいこともあり、朝市でも良く売れました。」と話されていました。

「京唐菜」は寒暖の差が大きい京北地域の気候に適しており、京都市では、この栽培結果を活かして京北地域の他の農家にも「京唐菜」の栽培を拡大していく予定です。

農薬を使用した後の空の容器の処理はどうするの？

農薬を使用した後の容器には、目には見えなくても内面に農薬が付着しています。以下のとおり適正な処理を行い、事故を防ぎましょう。

農薬の容器は、薬剤の種類に応じ、様々な材質・形態のものがあります。各々に応じた処理を行いましょ。

1 容器の洗浄について

- 紙袋・アルミ箔袋（粉剤・粒剤等）
- 軽く叩いて内面に付着している農薬を散布機や希釈用容器に落とす。
- 折りたたんで廃棄する。
- ビン・缶状の容器（液剤・水和剤）
- 約4分の1の水を加え密栓し、良く振り、散布機等の中に移す。
- この操作を3回繰り返す。
- 容器内の水をよく切り廃棄する。

なぜ3回？

実験により容器内に残存する農薬のほとんどが洗浄で除去できることが確認されています。

洗浄で除去された農薬量(%)			農薬
3回目	2回目	1回目	
99.94	99.91	99.23	A 乳剤
99.92	99.78	97.44	B ソル剤
98.76	96.92	86.37	C 油剤

<農薬工業会試験成績より>

揮発性農薬の入った缶（クロルピクリン剤等）

- 周囲に影響を及ぼさない場所に小さな窪みを作り、缶を逆さまにして、口栓が窪みの中に収まるよう倒立させる。
- 臭気がなくなるまで静置しておく。
- エアゾール缶
- 火気のない屋外で噴射音が消えるまでガスを抜く。

2 洗浄後の液の処理について

の作業によりできた洗浄液は、同じ薬剤を調整する場合の希釈液として用いる。

3 やめましょう！（禁止事項）

使用済容器は他の用途に使用しない。また、残った農薬を移し替えない。

空容器・空袋はほ場などに放置しない。（野焼き禁止）

容器に農薬を残したまま廃棄しない。残液及び洗浄液は河川、用水路、下水等の水系に廃棄しない。

上桂川で多彩なイベント開催される！

京北の美しく豊かな清流、上桂川において、7月から9月にかけて水資源と川の大切さを知ってもらおうイベントが、上桂川漁業協同組合の主催により開催されました。

アユ釣り初心者教室では、募集人数を上回る56名の参加者が5グループに分かれ、地元プロの講師の指導により、友釣りを楽しみました。今後も是非参加したいという声も多く聞かれ、ますます友釣りに対する興味が深まったようです。



真剣に講師の説明を聞く参加者
[アユ釣り初心者教室]

また、アユ釣り競技大会では、予選会を勝ち抜いた9支部から27名が参加し釣果を競い合いました。



釣果を競い合う選手
[アユ釣り競技大会]

さらに、魚つかみ取り大会では、うだるような暑さの中、多くの幼児、小中学生が、水着姿やパンツ一枚など様々な格好で歓声を上げながら懸命にアユ、ウナギ、金魚を追いかける元気な姿が見られました。



夢中で魚を追いかける子供たち
[魚つかみ取り大会]

イベント紹介

自然の感動、こだま響く

ふるさと森都市フェスティバル

去る7月24日、左京区花脊の山村都市交流の森で「ふるさと森都市フェスティバル」を開催し、3千人余りの来場者がトウモロコシもぎ取り体験、草木染め、川遊び、木工教室、竹細工、花笠作り体験などを満喫しました。



まつり娘和太鼓コンサート

「まつり娘」の和太鼓コンサートでは、和太鼓の鼓動が山々に響き渡りました。

特に今年は、地域内外の子供の交流により地域の活性化を目指す「山の子応援団（うり坊）」が参加するなど、地域活力の源は子供である!!との地元住民の強い思いが感じとれるイベントとなりました。

出会い！ふれあい！「旬」発見！ 京の農林秋まつり

秋の彩りが豊かな上賀茂神社の境内で、去る11月5日に「京の農林秋まつり」を開催しました。広い緑の芝生いっぱいには広がった会場は、親子連れなど約1万7千2百人の来場者で賑わいました。

市内各地の特産物の即売のほか、「しいたけの菌打ち体験」や、家畜とふれあえる「ミニ動物園」

など、どのコーナーも趣向を凝らしたもので、順番を待つ来場者の長い列ができていました。特に今回は、雄大な自然が残る京北地域からも数多くの出店があり、京の農林業を全身で感じる一日となりました。



もちつきを体験する子どもたち